



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第三〇〇号〜

芒種 ぼうしゅ

六月六日

実意の誓い式

毎年六月二十四日、志摩市磯部町の伊雑宮で行われる御田植式。日本三大御田植祭に数えられる伝統行事です。この御田植は、伊勢神宮のご料田でありながら、地元の九地区が順番に担当する輪番制（合併して行う地区もあるため七年に一度）で行っているのに特徴があります。今年も穴川地区が平成二十四年から七年ぶりに担当。これまで幾度となく、取材撮影してきましたが、今回初めて、御田植式のスタートを拝見しました。

五月十二日夕方、穴川公民館の広間は大勢の人々が集まっていました。この日は「実意の誓い式」が行われるのです。地区の区長が「オール穴川でがんばりましょう」、踊りと謡の指導にあたる師匠が「つらいことがあるかもしれないが、また今後もしたいと思うようになってほしい」と挨拶し、御田植の役人が一人ずつ発表されました。

太鼓、ささら、笛、大鼓、小鼓、謡、早乙女、いずれも地区の小中学生ばかりです。えぶり、田道人は社会人の男性が担当します。

広間にずらりと並んだ役人。その中でひとときわ背の小さな小学二年の男子が、誓いの言葉をしっかりと述べました。御田植で主役となる「太鼓」役です。暑い中、おかつば頭に赤い着物を着て、田舟に乗って太鼓を叩く重要な役どころ。小さい体から、力がほとばしるようです。

役人は誓い式の翌日から練習が始まります。特に太鼓、ささらなど踊りや謡担当の子どもは本番まで毎日稽古をするのです。週末も休みません。地区の伝統行事に取組む意気込みを感じました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 夏まちなまつり

夏が待ち遠しい季節、昔の人々がどのように暑さをしのぎ、夏を楽しんできたかを探り、先人達の夏の過ごし方を一緒に楽しんでいただくお祭りです。

と き／6月7日(金)～9日(日) 10:00～17:30

※8日は、20:00まで

※催しによっては開催日時が異なるものもございます。

ところ／おかげ横丁一帯(雨天時は一部中止)

● 夏まち大道芸

バナナの叩き売りやガマの油売りなど、どこか懐かしい和芸を中心に、個性豊かな大道芸人が登場。暑さも忘れる口上をお楽しみください。

と き／6月8日(土)、9日(日) 10:00～17:30

ところ／おかげ横丁内各所

※雨天の場合中止となる場合がございます。 ※8日は時間延長いたします。
＜出演予定者＞ 三ツ沢グッチ(街頭紙芝居)、ももっち(ジャグリング)、筑豊大介(猿舞)、揚野バンリ(和洋曲芸)、上條充(江戸系あやつり人形)など

● レンタルゆかた

お気に入りの浴衣を選んで、素敵な姿で町をそぞろ歩きましょう。女性用はもちろん、男性用、お子様用もご用意しております。

と き／6月7日(金)～9日(日)

受付時間 10:00～16:00(8日は18:00まで)

料 金／2,900円～

ところ／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

協 力／有限会社 すかや呉服店

五十鈴塾

○ 端午の節句菖蒲から尚武へ 一端午の節句さまごまー

『枕草子』に「節は五月にしく月はなし。菖蒲・蓬などのかをりあひたる、いみじうおかし。」と綴られた端午の節句。もとは月の初め(端)の午の日に邪を菖蒲などで払った節句でした。「菖蒲」が「尚武」に通じることから、江戸時代には男の子の無事な成長、武功を願う日に転じ、幟旗や武具、人形などを户外で飾るようになったのです。江戸後期には邸内での座敷飾りの流行に伴い、著名な画家に幟旗を依頼することもありました。端午の節句の移り変わりを辿り、特に家宝の掛軸へと改装された江戸琳派の幟旗をご紹介します。端午にちなんだお料理、和菓子もご堪能ください。

と き／6月10日(月) 11:00～13:30

講 師／岡野 智子(細見美術館上席研究員)

参加費／一般4,000円 会員3,500円(食事代、茶菓子代含む)

集 合／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

びわ
枇杷

黄身餡を外郎生地で包み、旬ならではの甘く瑞々しい、枇杷の実を表現しました。

なつごも
夏衣

薄紅と緑に染め分けた餡を、透明な葛生地で巻き、涼しく軽やかな、夏衣の風情に見立てました。

よひら はな
四片の花

四片の花とは、あじさいの別称。薄紫色の錦玉を淡雪で寄せ、ほのかな洋酒が香る白餡を包みました。